

NATIONAL POTATO COUNCIL SEED SEMINAR

1994年11月のある日、アメリカ・モンタナ州立大学馬鈴薯研究室のDr. Mike Sunから1994 National Potato Council Seed Seminarの案内と招聘状が届いた。期間は1994年12月8、9、10日。

突然のことであり、馬鈴薯、とくに種いもに関わる者の一人として無関心にすべきでないとは思いつつも、80歳を越えた身体であり、かつ語学力も十分でないことも考え、一時は躊躇したが、思い切って出席することに手続をした。参加して、公私とも多くの研究者の中に入って交流が出来、思いがけない数々の体験と成果を得て帰国できたことは嬉しかった。

会議はアメリカの種馬鈴薯生産各州によって実施され、開催会場は年毎に輪番となって、各州大学の馬鈴薯研究者、生産農家、バイヤー等が集まり、夫々の州での種馬鈴薯の研究・生産事情、そして品質向上に対する検討などにつき発表が行われ、質疑応答もあり、参加者数は約400名で、同伴者、パネル展示関係者を含めると600名にも及ぶ盛大なものであった。

なお、日本から参加したのは筆者のみである。

本年（1994）の会議は13回目であり、1991年はミシガン州、1992年はメイン州、1993年はオレゴン州、そして1995年の開催地はネブラスカ州となっている。

横道にそれるが、会場のモンタナ州ブースマン（Bozeman Montana）への往路は、ある事情で、12月5日、札幌（日本航空）→羽田乗換（中華航空）→台北（2泊）、12月7日、台北

（ユナイテッド航空）→サンフランシスコ乗換（ユナイテッド航空）→デンバー乗換（フロンティア航空）→ブースマン。深夜到着となり長時間の機乗でいささか時差ボケであったが、これも思い出の一つとなった。

会場となったモンタナ州は北部をカナダに接し、広さは北海道の2倍であるが、人口は約80万人。開催地のブースマンは、住民は以前4万人であったが、先年のカリフォルニア州地震で、同州からの移住者によって、現在は6万人になったと言われ、モンタナ州立大学があり、市街は高層ビルの少ない静かな街と思われた。

同州における馬鈴薯は、種いも生産が主目標である。約100戸の農家によって体系が確立されており、作付面積3,000ヘクタールで、その面積の多くはRusset Burbank種で占められ、種いもを選別したあとの規格外大粒はすべて生食用として処理している。

農民はオランダより移住して来たと言う2世が多く、通りの地名も、食用として販売される場合の商品名も、オランダ的な名前をつけているのが見られた。

今回のミーティングでは、モンタナ州は勿論、各州では種いもの無病健全、品質向上に、大学、協会、生産者らがこぞって努力しておる様子が見えてきたが、その採種体系、組織づくりの心構えは、筆者の不勉強による印象かもしれないが、日本とはいささか異なるというより、一歩前進していて、レベルが高いと推見されたと言っても過言ではない。（塩田弘行）